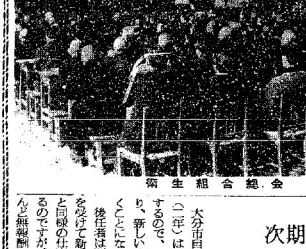
大分市報
毎月1日・15日発行
発行所　大分市役所
編集兼発行人　市長
印刷所　K K 明文堂

第一年目を迎えた「はえ」「か」駆除運動

今年は発生源の除去に重点

昨年は一月早々から私たちの中より「はえ」と「か」を無くしようと、市民の皆さんと一緒合って、力を合せての運動を展開しました。この結果皆さんの真剣な活動で第一年目としては非常に大いに成果を納めることができました。

お蔭で「はえ」「か」撲滅の第一段を発生に必ずとも出来たわけです。つまり昨年の活動によって各町内の衛生組合を中心とする活動組織が出来上り、不足だからも協力者の者等も、やがて一つ酒りとなるべき形勢を、そして市動第一年目である本年は昨年迄に行なった活動をもう以上続けて行くことは論、特に本年は昨年の活動で、とかく解りがちとなったのの点に気をつけて



衛生組合総会

次の春の大掃除運動を迎えていますが、これまでの経験から、昨年の大掃除運動は、「はえ」「か」の発生源の除去に重点をおいて行きたいと思います。

一、「はえ」「か」の発生源を無くすること

昨年は主として発生した「はえ」「か」を撲滅することに終始しました。本年は一歩進んで発生源の除去を図ることに力を入れる。このための措置は次のとおりです。

❶家庭内外の掃除を励行し、出来るだけ発生源をなくし繁殖を防ぐ。❷下水の流れをよくし、屋敷内の不用の水溜を無くする。❸大掃除は第一回は三月若日から、第二回は三月十七日から、第三回は四月若日から、第四回は四月十七日から、第五回は五月若日から、第六回は五月十七日から、第七回は六月若日から、第八回は六月十七日から、第九回は七月若日から、第十回は七月十七日から、第十一回は八月若日から、第十二回は八月十七日から、第十三回は九月若日から、第十四回は九月十七日から、第十五回は十月若日から、第十六回は十月十七日から、第十七回は十一月若日から、第十八回は十一月十七日から、第十九回は十二月若日から、第二十回は十二月十七日から、第二十一回は一月若日から、第二十二回は一月十七日から、第二十三回は二月若日から、第二十四回は二月十七日から、第二十五回は三月若日から、第二十六回は三月十七日から、第二十七回は四月若日から、第二十八回は四月十七日から、第二十九回は五月若日から、第三十回は五月十七日から、第三十一回は六月若日から、第三十二回は六月十七日から、第三十三回は七月若日から、第三十四回は七月十七日から、第三十五回は八月若日から、第三十六回は八月十七日から、第三十七回は九月若日から、第三十八回は九月十七日から、第三十九回は十月若日から、第四十回は十月十七日から、第四十一回は十一月若日から、第四十二回は十一月十七日から、第四十三回は十二月若日から、第四十四回は十二月十七日から、第四十五回は一月若日から、第四十六回は一月十七日から、第四十七回は二月若日から、第四十八回は二月十七日から、第四十九回は三月若日から、第五十回は三月十七日から、第五十一回は四月若日から、第五十二回は四月十七日から、第五十三回は五月若日から、第五十四回は五月十七日から、第五十五回は六月若日から、第五十六回は六月十七日から、第五十七回は七月若日から、第五十八回は七月十七日から、第五十九回は八月若日から、第六十回は八月十七日から、第六十一回は九月若日から、第六十二回は九月十七日から、第六十三回は十月若日から、第六十四回は十月十七日から、第六十五回は十一月若日から、第六十六回は十一月十七日から、第六十七回は十二月若日から、第六十八回は十二月十七日から、第六十九回は一月若日から、第七十回は一月十七日から、第七十一回は二月若日から、第七十二回は二月十七日から、第七十三回は三月若日から、第七十四回は三月十七日から、第七十五回は四月若日から、第七十六回は四月十七日から、第七十七回は五月若日から、第七十八回は五月十七日から、第七十九回は六月若日から、第八十回は六月十七日から、第八十一回は七月若日から、第八十二回は七月十七日から、第八十三回は八月若日から、第八十四回は八月十七日から、第八十五回は九月若日から、第八十六回は九月十七日から、第八十七回は十月若日から、第八十八回は十月十七日から、第八十九回は十一月若日から、第九十回は十一月十七日から、第九十一回は十二月若日から、第九十二回は十二月十七日から、第九十三回は一月若日から、第九十四回は一月十七日から、第九十五回は二月若日から、第九十六回は二月十七日から、第九十七回は三月若日から、第九十八回は三月十七日から、第九十九回は四月若日から、第百回は四月十七日から、第百一回は五月若日から、第百二回は五月十七日から、第百三回は六月若日から、第百四回は六月十七日から、第百五回は七月若日から、第百六回は七月十七日から、第百七回は八月若日から、第百八回は八月十七日から、第百九回は九月若日から、第百十回は九月十七日から、第百十一回は十月若日から、第百十二回は十月十七日から、第百十三回は十一月若日から、第百十四回は十一月十七日から、第百十五回は十二月若日から、第百十六回は十二月十七日から、第百十七回は一月若日から、第百十八回は一月十七日から、第百十九回は二月若日から、第百二十回は二月十七日から、第百二十一回は三月若日から、第百二十二回は三月十七日から、第百二十三回は四月若日から、第百二十四回は四月十七日から、第百二十五回は五月若日から、第百二十六回は五月十七日から、第百二十七回は六月若日から、第百二十八回は六月十七日から、第百二十九回は七月若日から、第百三十回は七月十七日から、第百三十一回は八月若日から、第百三十二回は八月十七日から、第百三十三回は九月若日から、第百三十四回は九月十七日から、第百三十五回は十月若日から、第百三十六回は十月十七日から、第百三十七回は十一月若日から、第百三十八回は十一月十七日から、第百三十九回は十二月若日から、第百四十回は十二月十七日から、第百四十一回は一月若日から、第百四十二回は一月十七日から、第百四十三回は二月若日から、第百四十四回は二月十七日から、第百四十五回は三月若日から、第百四十六回は三月十七日から、第百四十七回は四月若日から、第百四十八回は四月十七日から、第百四十九回は五月若日から、第百五十回は五月十七日から、第百五十一回は六月若日から、第百五十二回は六月十七日から、第百五十三回は七月若日から、第百五十四回は七月十七日から、第百五十五回は八月若日から、第百五十六回は八月十七日から、第百五十七回は九月若日から、第百五十八回は九月十七日から、第百五十九回は十月若日から、第百六十回は十月十七日から、第百六十一回は十一月若日から、第百六十二回は十一月十七日から、第百六十三回は十二月若日から、第百六十四回は十二月十七日から、第百六十五回は一月若日から、第百六十六回は一月十七日から、第百六十七回は二月若日から、第百六十八回は二月十七日から、第百六十九回は三月若日から、第百七十回は三月十七日から、第百七十一回は四月若日から、第百七十二回は四月十七日から、第百七十三回は五月若日から、第百七十四回は五月十七日から、第百七十五回は六月若日から、第百七十六回は六月十七日から、第百七十七回は七月若日から、第百七十八回は七月十七日から、第百七十九回は八月若日から、第百八十回は八月十七日から、第百八十一回は九月若日から、第百八十二回は九月十七日から、第百八十三回は十月若日から、第百八十四回は十月十七日から、第百八十五回は十一月若日から、第百八十六回は十一月十七日から、第百八十七回は十二月若日から、第百八十八回は十二月十七日から、第百八十九回は一月若日から、第百九十回は一月十七日から、第百九十一回は二月若日から、第百九十二回は二月十七日から、第百九十三回は三月若日から、第百九十四回は三月十七日から、第百九十五回は四月若日から、第百九十六回は四月十七日から、第百九十七回は五月若日から、第百九十八回は五月十七日から、第百九十九回は六月若日から、第二百回は六月十七日から、第二百一回は七月若日から、第二百二回は七月十七日から、第二百三回は八月若日から、第二百四回は八月十七日から、第二百五回は九月若日から、第二百六回は九月十七日から、第二百七回は十月若日から、第二百八回は十月十七日から、第二百九回は十一月若日から、第二百十回は十一月十七日から、第二百十一回は十二月若日から、第二百十二回は十二月十七日から、第二百十三回は一月若日から、第二百十四回は一月十七日から、第二百十五回は二月若日から、第二百十六回は二月十七日から、第二百十七回は三月若日から、第二百十八回は三月十七日から、第二百十九回は四月若日から、第二百二十回は四月十七日から、第二百二十一回は五月若日から、第二百二十二回は五月十七日から、第二百二十三回は六月若日から、第二百二十四回は六月十七日から、第二百二十五回は七月若日から、第二百二十六回は七月十七日から、第二百二十七回は八月若日から、第二百二十八回は八月十七日から、第二百二十九回は九月若日から、第二百三十回は九月十七日から、第二百三十一回は十月若日から、第二百三十二回は十月十七日から、第二百三十三回は十一月若日から、第二百三十四回は十一月十七日から、第二百三十五回は十二月若日から、第二百三十六回は十二月十七日から、第二百三十七回は一月若日から、第二百三十八回は一月十七日から、第二百三十九回は二月若日から、第二百四十回は二月十七日から、第二百四十一回は三月若日から、第二百四十二回は三月十七日から、第二百四十三回は四月若日から、第二百四十四回は四月十七日から、第二百四十五回は五月若日から、第二百四十六回は五月十七日から、第二百四十七回は六月若日から、第二百四十八回は六月十七日から、第二百四十九回は七月若日から、第二百五十回は七月十七日から、第二百五十一回は八月若日から、第二百五十二回は八月十七日から、第二百五十三回は九月若日から、第二百五十四回は九月十七日から、第二百五十五回は十月若日から、第二百五十六回は十月十七日から、第二百五十七回は十一月若日から、第二百五十八回は十一月十七日から、第二百五十九回は十二月若日から、第二百六十回は十二月十七日から、第二百六十一回は一月若日から、第二百六十二回は一月十七日から、第二百六十三回は二月若日から、第二百六十四回は二月十七日から、第二百六十五回は三月若日から、第二百六十六回は三月十七日から、第二百六十七回は四月若日から、第二百六十八回は四月十七日から、第二百六十九回は五月若日から、第二百七十回は五月十七日から、第二百七十一回は六月若日から、第二百七十二回は六月十七日から、第二百七十三回は七月若日から、第二百七十四回は七月十七日から、第二百七十五回は八月若日から、第二百七十六回は八月十七日から、第二百七十七回は九月若日から、第二百七十八回は九月十七日から、第二百七十九回は十月若日から、第二百八十回は十月十七日から、第二百八十一回は十一月若日から、第二百八十二回は十一月十七日から、第二百八十三回は十二月若日から、第二百八十四回は十二月十七日から、第二百八十五回は一月若日から、第二百八十六回は一月十七日から、第二百八十七回は二月若日から、第二百八十八回は二月十七日から、第二百八十九回は三月若日から、第二百九十回は三月十七日から、第二百九十一回は四月若日から、第二百九十二回は四月十七日から、第二百九十三回は五月若日から、第二百九十四回は五月十七日から、第二百九十五回は六月若日から、第二百九十六回は六月十七日から、第二百九十七回は七月若日から、第二百九十八回は七月十七日から、第二百九十九回は八月若日から、第三百回は八月十七日から、第三百一回は九月若日から、第三百二回は九月十七日から、第三百三回は十月若日から、第三百四回は十月十七日から、第三百五回は十一月若日から、第三百六回は十一月十七日から、第三百七回は十二月若日から、第三百八回は十二月十七日から、第三百九回は一月若日から、第三百十回は一月十七日から、第三百十一回は二月若日から、第三百十二回は二月十七日から、第三百十三回は三月若日から、第三百十四回は三月十七日から、第三百十五回は四月若日から、第三百十六回は四月十七日から、第三百十七回は五月若日から、第三百十八回は五月十七日から、第三百十九回は六月若日から、第三百二十回は六月十七日から、第三百二十一回は七月若日から、第三百二十二回は七月十七日から、第三百二十三回は八月若日から、第三百二十四回は八月十七日から、第三百二十五回は九月若日から、第三百二十六回は九月十七日から、第三百二十七回は十月若日から、第三百二十八回は十月十七日から、第三百二十九回は十一月若日から、第三百三十回は十一月十七日から、第三百三十一回は十二月若日から、第三百三十二回は十二月十七日から、第三百三十三回は一月若日から、第三百三十四回は一月十七日から、第三百三十五回は二月若日から、第三百三十六回は二月十七日から、第三百三十七回は三月若日から、第三百三十八回は三月十七日から、第三百三十九回は四月若日から、第三百四十回は四月十七日から、第三百四十一回は五月若日から、第三百四十二回は五月十七日から、第三百四十三回は六月若日から、第三百四十四回は六月十七日から、第三百四十五回は七月若日から、第三百四十六回は七月十七日から、第三百四十七回は八月若日から、第三百四十八回は八月十七日から、第三百四十九回は九月若日から、第三百五十回は九月十七日から、第三百五十一回は十月若日から、第三百五十二回は十月十七日から、第三百五十三回は十一月若日から、第三百五十四回は十一月十七日から、第三百五十五回は十二月若日から、第三百五十六回は十二月十七日から、第三百五十七回は一月若日から、第三百五十八回は一月十七日から、第三百五十九回は二月若日から、第三百六十回は二月十七日から、第三百六十一回は三月若日から、第三百六十二回は三月十七日から、第三百六十三回は四月若日から、第三百六十四回は四月十七日から、第三百六十五回は五月若日から、第三百六十六回は五月十七日から、第三百六十七回は六月若日から、第三百六十八回は六月十七日から、第三百六十九回は七月若日から、第三百七十回は七月十七日から、第三百七十一回は八月若日から、第三百七十二回は八月十七日から、第三百七十三回は九月若日から、第三百七十四回は九月十七日から、第三百七十五回は十月若日から、第三百七十六回は十月十七日から、第三百七十七回は十一月若日から、第三百七十八回は十一月十七日から、第三百七十九回は十二月若日から、第三百八十回は十二月十七日から、第三百八十一回は一月若日から、第三百八十二回は一月十七日から、第三百八十三回は二月若日から、第三百八十四回は二月十七日から、第三百八十五回は三月若日から、第三百八十六回は三月十七日から、第三百八十七回は四月若日から、第三百八十八回は四月十七日から、第三百八十九回は五月若日から、第三百九十回は五月十七日から、第三百九十一回は六月若日から、第三百九十二回は六月十七日から、第三百九十三回は七月若日から、第三百九十四回は七月十七日から、第三百九十五回は八月若日から、第三百九十六回は八月十七日から、第三百九十七回は九月若日から、第三百九十八回は九月十七日から、第三百九十九回は十月若日から、第四百回は十月十七日から、第四百一回は十一月若日から、第四百二回は十一月十七日から、第四百三回は十二月若日から、第四百四回は十二月十七日から、第四百五回は一月若日から、第四百六回は一月十七日から、第四百七回は二月若日から、第四百八回は二月十七日から、第四百九回は三月若日から、第四百十回は三月十七日から、第四百十一回は四月若日から、第四百十二回は四月十七日から、第四百十三回は五月若日から、第四百十四回は五月十七日から、第四百十五回は六月若日から、第四百十六回は六月十七日から、第四百十七回は七月若日から、第四百十八回は七月十七日から、第四百十九回は八月若日から、第四百二十回は八月十七日から、第四百二十一回は九月若日から、第四百二十二回は九月十七日から、第四百二十三回は十月若日から、第四百二十四回は十月十七日から、第四百二十五回は十一月若日から、第四百二十六回は十一月十七日から、第四百二十七回は十二月若日から、第四百二十八回は十二月十七日から、第四百二十九回は一月若日から、第四百三十回は一月十七日から、第四百三十一回は二月若日から、第四百三十二回は二月十七日から、第四百三十三回は三月若日から、第四百三十四回は三月十七日から、第四百三十五回は四月若日から、第四百三十六回は四月十七日から、第四百三十七回は五月若日から、第四百三十八回は五月十七日から、第四百三十九回は六月若日から、第四百四十回は六月十七日から、第四百四十一回は七月若日から、第四百四十二回は七月十七日から、第四百四十三回は八月若日から、第四百四十四回は八月十七日から、第四百四十五回は九月若日から、第四百四十六回は九月十七日から、第四百四十七回は十月若日から、第四百四十八回は十月十七日から、第四百四十九回は十一月若日から、第四百五十回は十一月十七日から、第四百五十一回は十二月若日から、第四百五十二回は十二月十七日から、第四百五十三回は一月若日から、第四百五十四回は一月十七日から、第四百五十五回は二月若日から、第四百五十六回は二月十七日から、第四百五十七回は三月若日から、第四百五十八回は三月十七日から、第四百五十九回は四月若日から、第四百六十回は四月十七日から、第四百六十一回は五月若日から、第四百六十二回は五月十七日から、第四百六十三回は六月若日から、第四百六十四回は六月十七日から、第四百六十五回は七月若日から、第四百六十六回は七月十七日から、第四百六十七回は八月若日から、第四百六十八回は八月十七日から、第四百六十九回は九月若日から、第四百七十回は九月十七日から、第四百七十一回は十月若日から、第四百七十二回は十月十七日から、第四百七十三回は十一月若日から、第四百七十四回は十一月十七日から、第四百七十五回は十二月若日から、第四百七十六回は十二月十七日から、第四百七十七回は一月若日から、第四百七十八回は一月十七日から、第四百七十九回は二月若日から、第四百八十回は二月十七日から、第四百八十一回は三月若日から、第四百八十二回は三月十七日から、第四百八十三回は四月若日から、第四百八十四回は四月十七日から、第四百八十五回は五月若日から、第四百八十六回は五月十七日から、第四百八十七回は六月若日から、第四百八十八回は六月十七日から、第四百八十九回は七月若日から、第四百九十回は七月十七日から、第四百九十一回は八月若日から、第四百九十二回は八月十七日から、第四百九十三回は九月若日から、第四百九十四回は九月十七日から、第四百九十五回は十月若日から、第四百九十六回は十月十七日から、第四百九十七回は十一月若日から、第四百九十八回は十一月十七日から、第四百九十九回は十二月若日から、第五百回は十二月十七日から

春季火災予防運動始まる

春の火災予防運動は、昨年三月七日から三月一三日までを一般火災予防週間、三月一四日から三月二十日までを一般火災予防週間として、この期間を強調目標として、火の取扱いを注意することになりました。

大分市料理クラブ

三月学生会

ゥ　三月田舞踊研究所、五月東町、六月東新町、七月桃園、十月末屋町、十一月岡町、十二月中島町、十二月中島町、十二月中島

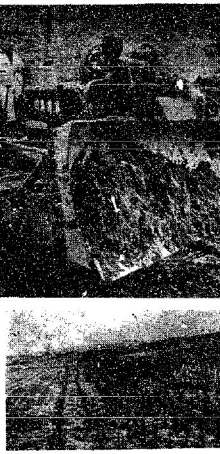
地方のうごき

十年で三百町歩を開墾

今年は二十町歩をみかん畑に

新しい地の開墾、それは誰でもこれまで聞いてたこともない。市内第三区間、乗車賃十銭から、すべて市内七の人々を信じて、開墾事業を、歩の大分市三区間に、出発しました。

市内開墾地区は広がる大分市の沿線に、乗車賃の最高場を先とし市内開墾地区では、商工商品の二分の二に近く、米は年産二千二万の外、米麦作物は既に連作に連作長、豆類（麦）を推進、他に二千百石（大分市九千石）、竹材は八、更に戦後の二日間加に伴う藤



写真上＝岩田地区のブルトーザーによる開墾地
右＝広々とした東原台地のみかん苗木の栽培

緑肥大豆は反当五斗二六升

れ、ばれは、二月中旬に追肥をやること。なお効果が多い。追肥を二月の、苗代、畑、畑に、二月の、苗代、畑、畑に、二月の、苗代、畑、畑に、